

2020年11月13日

熊本大学大学院自然科学教育部理学専攻

理学専攻 M2アンケートの集計と分析

このアンケートは2020年3月に修了した自然科学教育部理学専攻の大学院生を対象として実施したものである。アンケートの回答結果は、理学専攻および理学科の教育システムの改革や改善向上のために活用する。全対象院生からのアンケート回答回収を目指して、各研究室にアンケート用紙必要部数を封筒に封入して配布し、以下提出期限までに教務担当事務まで提出依頼した。

提出期限: 2020年2月14日 (金)

提出場所: 理学部教務担当

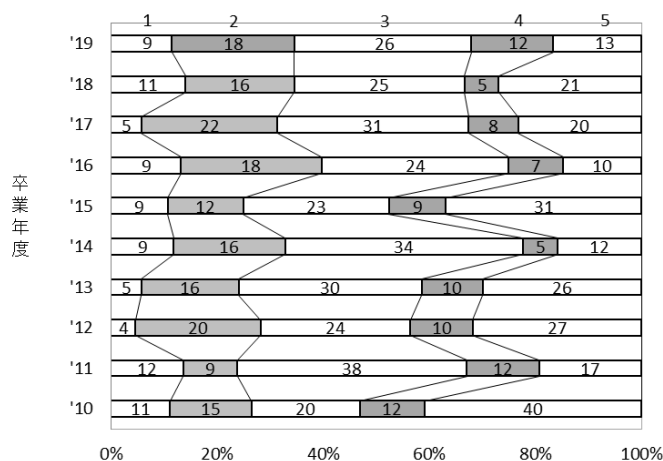
結果、78名から回答を得ることができた。回収率は100%であった。この報告書において回収したアンケートデータの集計とその分析を行った。なお '19 卒業年度を今年度と表記した。

あなたの研究分野は何ですか

- 1. 数学 2. 物理科学 3. 化学
- 4. 地球環境科学 5. 生命科学

アンケート回答者数の分野ごとの数値である。

前年度と比較して地球環境科学コースの増加、生命科学コースの減少が見られるが、各年度を通じて大きな変動は見られない。



A. 入学時の志望理由について

(A1) 入学時に熊本大学大学院自然科学教育部理学専攻を選んだ理由を記述して下さい。

回答・意見など：72件

多くあった意見をまとめると以下のようなになる。

研究を深めたい（継続したい）	53件
勉強したかった	
（スキルアップのため、研究活動に興味があった等）	5件
学部と同じ環境で学びたい	4件

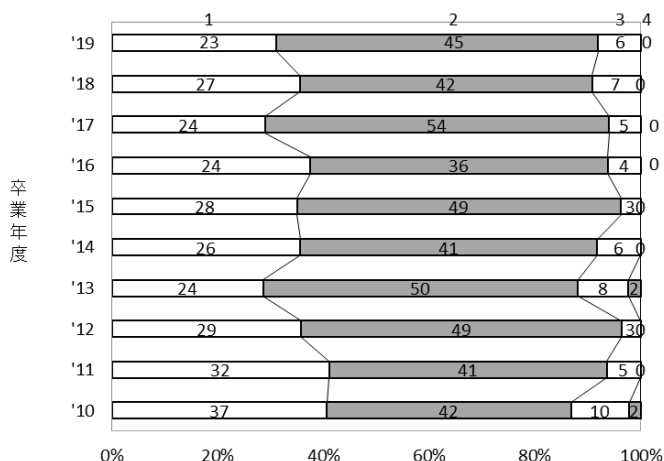
B. 教育・研究について

熊本大学理学部理学科を卒業された人に学部での授業や制度についてお聞きします。

（該当しない人は次ページの質問（B7）に進んで下さい）。

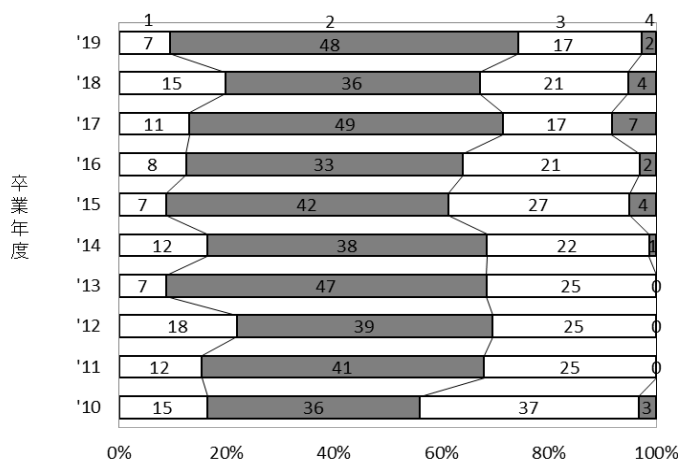
(B1) あなたの専門分野に関連する学部の専門科目は、大学院進学後の学習・研究に有益でしたか。

1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった



(B2) あなたの専門分野外の学部の専門科目（専門基礎科目も含む）は、大学院での学修・研究に有益でしたか。

1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった

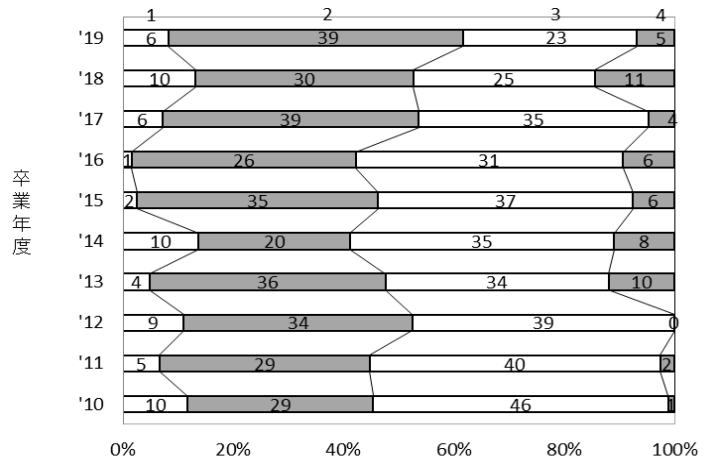


(B3) 教養教育での学修は、大学院での学修・研究に有益でしたか

1. 非常に有益だった
2. 有益だった
3. あまり有益ではなかった
4. 有益ではなかった

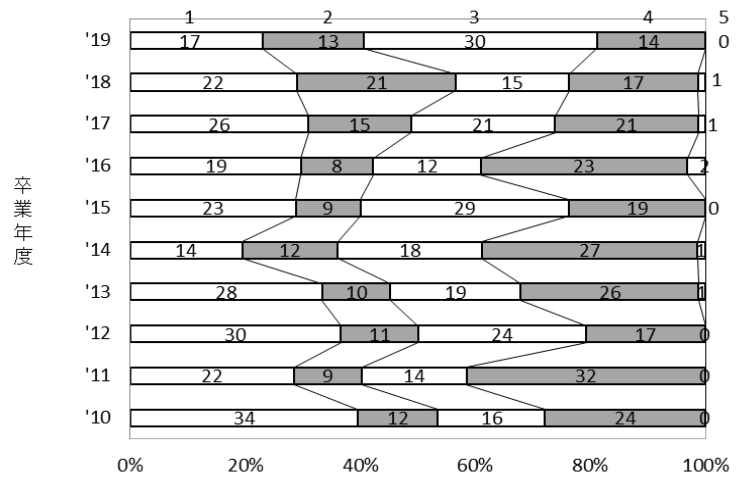
今年度の専門分野に関連する学部の専門科目は「有益」と「ある程度有益」で約 9

割を占めており、例年と大差がなかった。一方、専門分野外の専門科目ならびに教養教育に関しては、有益だったとする割合がアンケート調査開始以来、最高であった（それぞれ 74%、62%）。



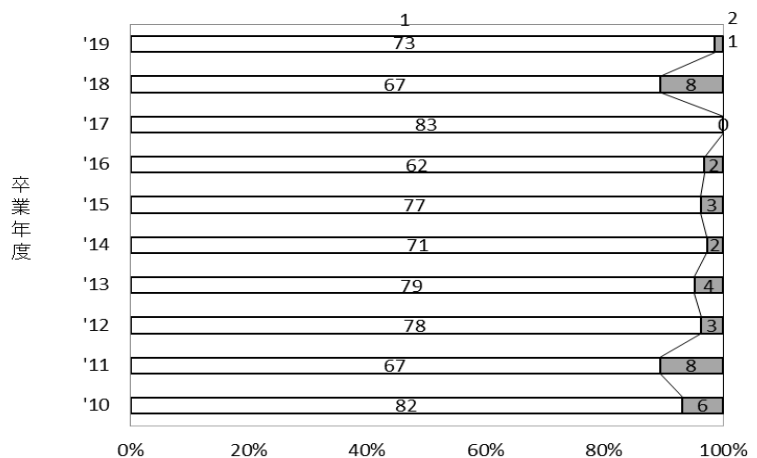
(B4) 理学科での専門分野はいつ決めましたか.

1. 入学前
2. 1年終了時
3. 2年前期終了時
4. 2年後期
5. その他(時期 : 回答0件)



(B5) 専門分野の選択は自分にとってよかったですか.

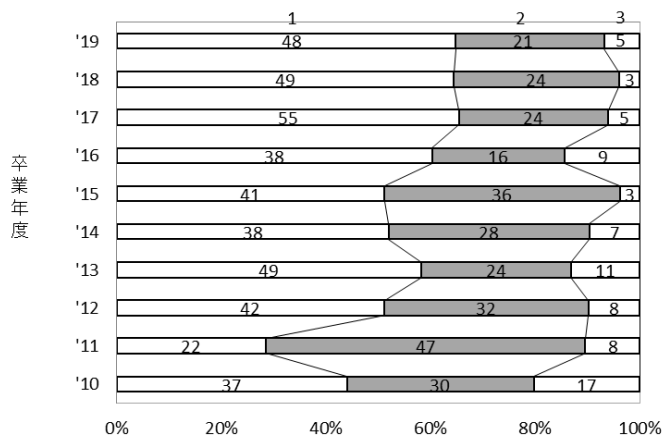
1. 思う
2. 思わない



(B6) 現在、3年進級時にコースを選択していますが、いつがよかったと思いますか。

1. いまのまま（3年進級時）
2. 2年後期から
3. その他（時期：回答5件）

今年度の専門分野を決めた時期は2年前期終了時が最多（40%）であったが、各年度でかなり異なっている。コース選択の時期についての問いに関しては「いまのまま（3年進級時）」とする回答がもっとも多く、ここ4年間、65%程度で推移している。

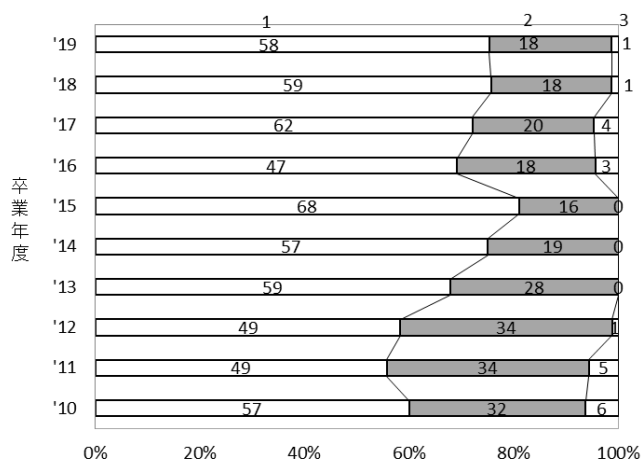


自然科学教育部での授業に関してお聞きします。

(B7) 必修科目数と選択科目数の割合は適切でしたか。具体的な意見があれば、お書き下さい。

1. 適切であった
2. どちらとも言えない
3. 不適切であった

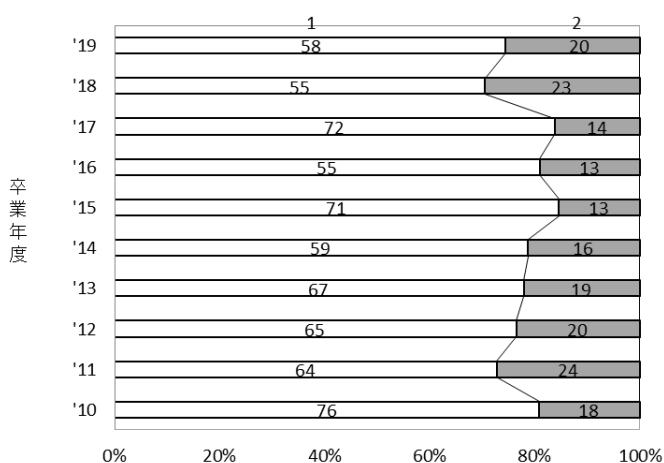
必修と選択の割合については、約70%が「適切」としている。



(B8) 理学専攻で他大学等の先生の集中講義を履修しましたか。履修した場合は、科目数もお書き下さい。また、集中講義に対して具体的な意見があれば、自由記述欄にお書き下さい。

1. 履修した（科目数：回答数 52件）
2. 履修しなかった

集中講義は74%の院生が履修している。科目数としては1-2科目と答える学生が多い。予算削減の中、集中講義枠をどう確保していくかが課題となるであろう。



(B9) 大学院の授業の中で特に有意義であった授業を挙げて下さい。

科目名, 意見など 49 件

各コースごとにいくつかの講義が挙げられている。それぞれ各専門分野の理解や研究に有意義であったと思われる。

(B10) 博士前期課程 2 年生で授業（特別研究やゼミナールを除く）を何科目履修しましたか。

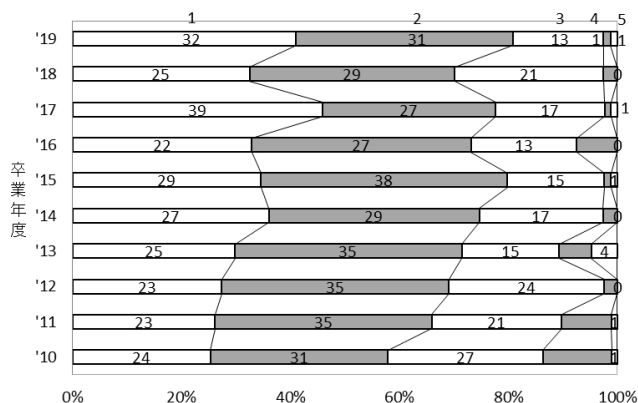
科目数：平均 2.9 科目（うち集中講義 平均 2.4 科目）

回答数：75 件

(B11) 博士前期課程のカリキュラムは如何でしたか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

「満足」「どちらかといえば満足」の学生が 80%を越えている。「どちらとも言えない」という回答は年々減少傾向にあるが、更に改善する必要がある。

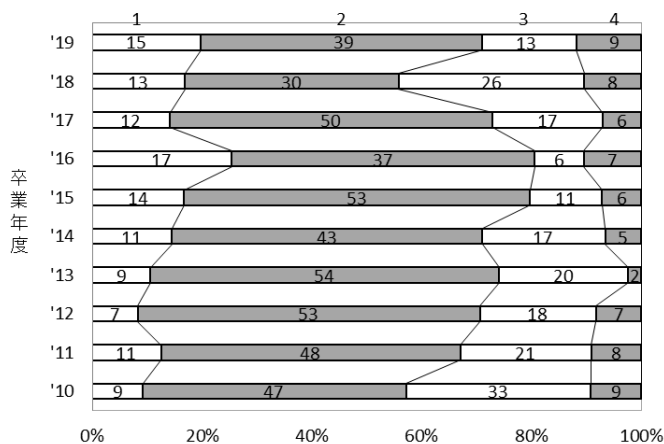


自然科学研究科の教育全般についてお聞きします。

(B12) 学生便覧に掲載されている自然科学教育部の教育目的は理解していましたか。

1. 十分理解している
2. ほぼ理解している
3. よくわからない
4. 知らない

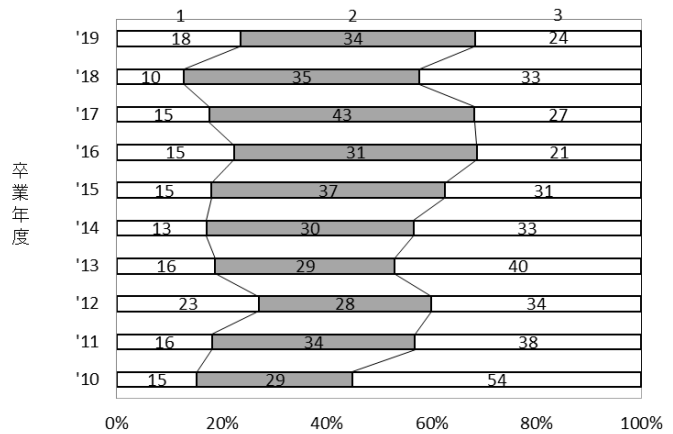
「十分理解」「ほぼ理解」で 74%であった。「よくわからない」は昨年度より大幅に減少した。



(B13) 自然科学教育部は理学系の専攻と工学系の専攻からなる融合型の研究科ですが、その事のメリットはありましたか。

1. メリットはあった
2. わからない
3. メリットはなかった

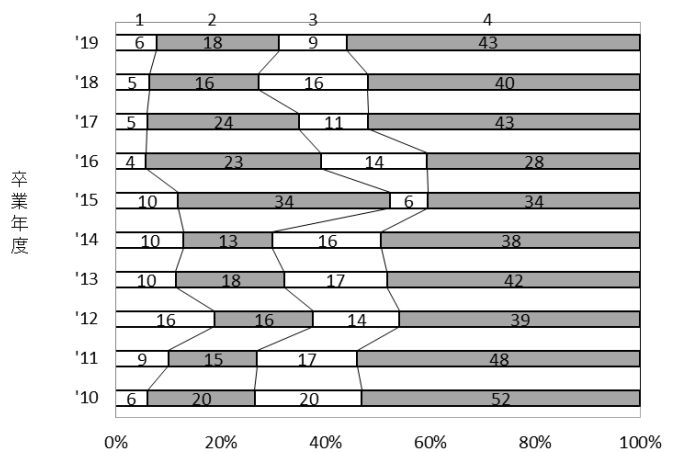
「メリットがあった」とする割合が 24% であり、例年通り「わからない」「メリットはなかった」が多数を占めている。理工融合の具体的なメリットを、精力的に学生へ情報提供する必要がある。



(B14) 工学系の専攻の大学院生との学術的交流はありましたか。

1. 工学系の大学院生と一緒に研究した
2. 工学系の大学院生と一緒に授業を履修した
3. 学術以外の交流があった
4. 全くなかった

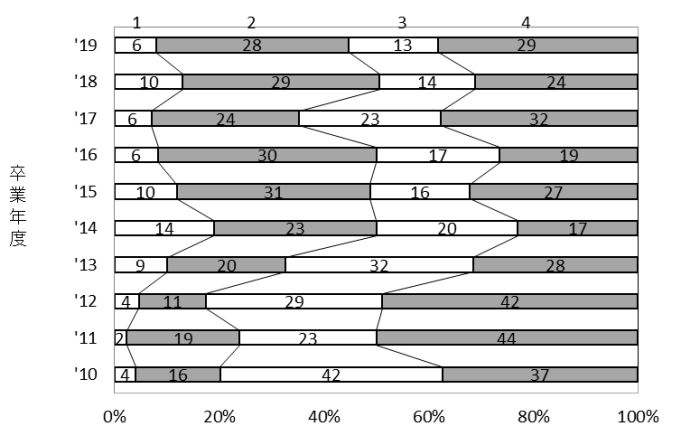
工学系の大学院生と全く交流がなかった院生が 5 割以上を占めている。理工合同セミナーなど、学術的交流の場を増やす検討が必要である。



(B15) 研究分野の異なる大学院生との学術的交流はありましたか。

1. 一緒に研究した
2. 一緒に授業を履修した
3. 学術以外の交流があった
4. 全くなかった

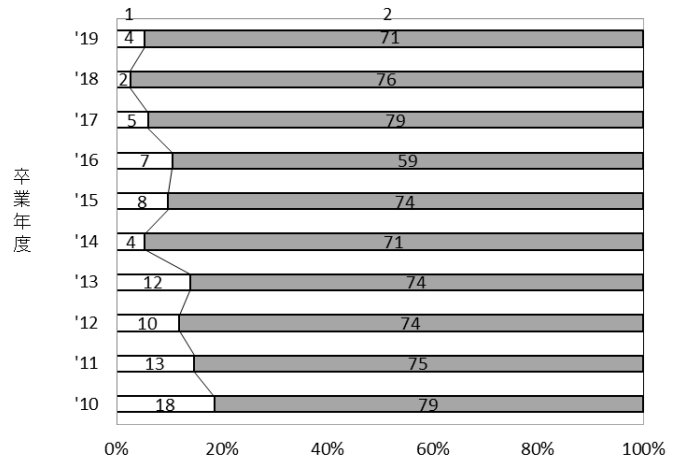
理学専攻の中でも他コースと何らかの交流がある院生は 60% 程度であり、中でも「一緒に授業を履修した」が最も多い。「全くなかった」との回答も 40% 程度を占めており、授業以外でも交流する機会を増やすための場を提供していくことが課題である。



(B16) 工学系の専攻の授業科目は履修しましたか.

1. 履修した (科目数 : 回答数 3 件)
2. 履修しなかった

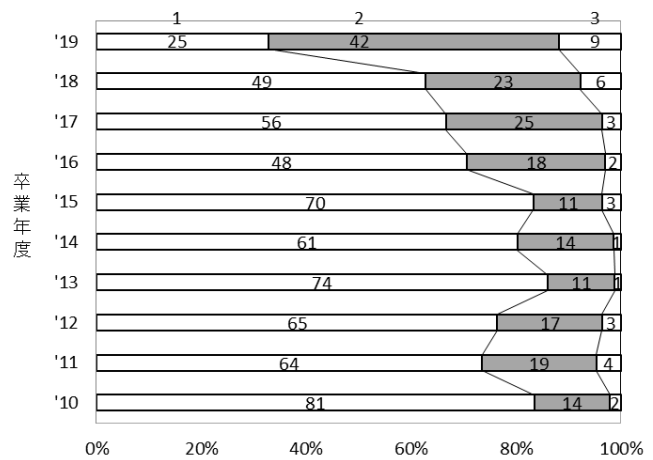
工学系の科目の履修者は, ここ数年間で顕著に減少している.



(B17) 全専攻共通科目 (インターシップ I, 特別プレゼンテーション I) は履修しましたか.

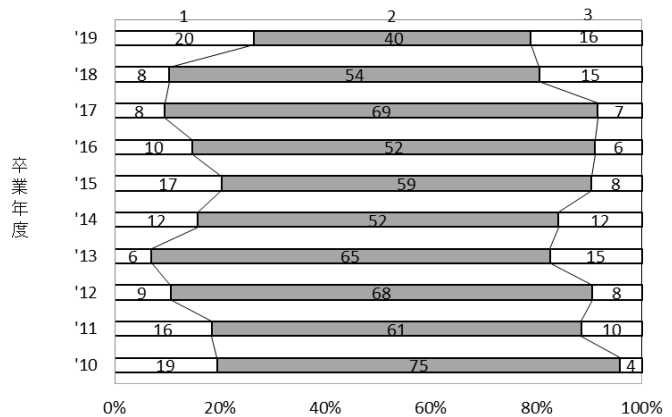
1. 履修した (科目数 : 回答数 21 件)
2. 履修しなかった
3. 知らなかった

今年度は「履修した」の割合が大きく減少した. 理由は不明である. 次年度以降の推移を見守る必要がある.



(B18) 理工融合教育科目 (先端科学科目, 大学院教養教育科目, 英語教育科目, MOT 特別教育科目) IJEP 開講科目, イノベーションリーダー育成プログラム開講科目は履修しましたか

1. 履修した (科目数 : 回答数 18 件)
2. 履修しなかった
3. 知らなかった

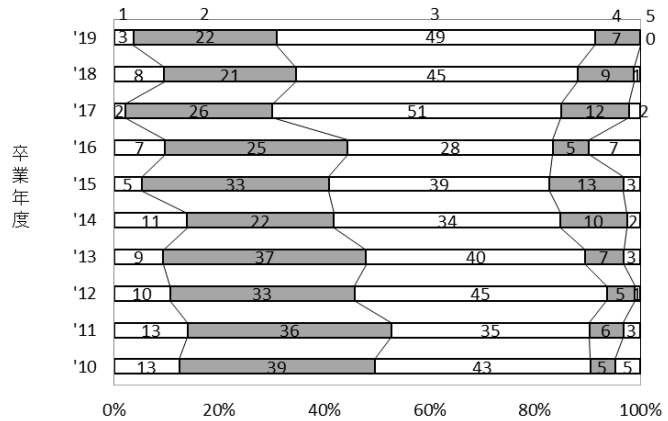


履修した院生の割合はアンケート調査開始以来, 最多となっている. 履修した院生の一人当たりの科目数は 1-2 が大半であるが, 7 科目履修した院生も 2 人いた. しかし 70%以上の院生が履修しておらず, 積極的な受講を促すアナウンスが必要である.

(B19) 自然科学教育部の授業の英語化について意見をお聞かせ下さい。(複数選択可)

1. 全て英語が良い
2. 専門用語は英語が良い
3. 基礎的な内容は日本語が良い
4. 全く必要ない

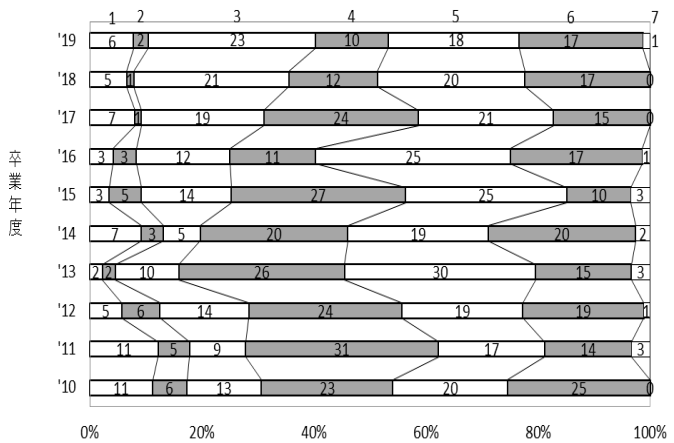
「基礎的な内容は日本語が良い」とする院生が60%程度を占める一方で、「全て英語」「専門用語は英語が」と答える院生が30%程度いる。大学院教育における英語と日本語の使い分けを検討すべきだろう。



(B20) 学部・大学院の6年間の中で勉学意欲が最も上がったのはどの時期ですか。

1. 1年次
2. 2年次
3. 3年次
4. 4年次
5. M1
6. M2
7. その他

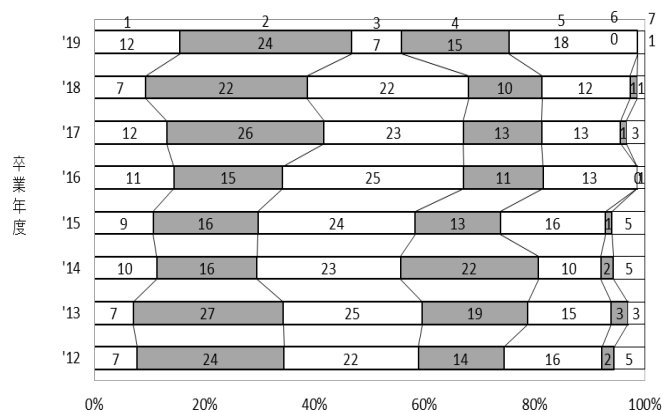
「M1」「M2」が多いのは、研究室で専門の研究を行うため勉学意欲が上がっているものと思われる。それに対し、入学して間もない1年次や2年次の割合が少ないのは検討の余地がある。



(B21) 学部・大学院の6年間で、いつの時期にもっと学修しておけば良かったと思いますか。

1. 1年次
2. 2年次
3. 3年次
4. 4年次
5. M1
6. M2
7. その他

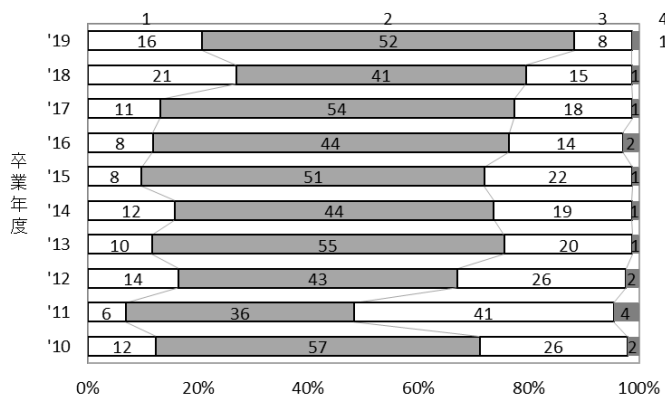
2年次にもっと学修しておけばよかったという回答が最も多く、(B20)の結果と真逆である。2年次の学修意欲を高める方法を考える必要がある。



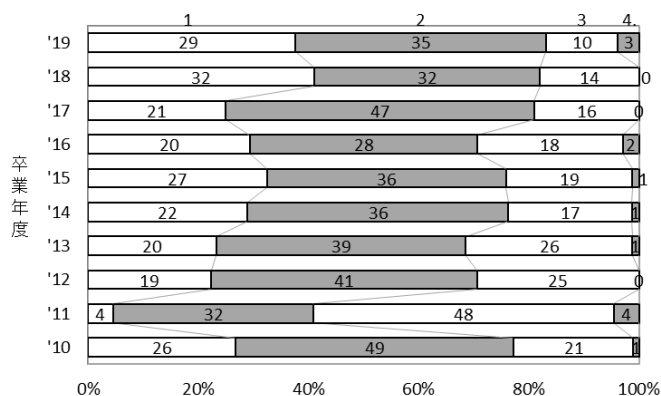
(B22) 学部・大学院の6年間の履修を通してどのような力が身に付いたと思いますか。それぞれの項目に関して、次の4段階で回答してください。

1. よく身に付いた
2. ある程度身に付いた
3. もっと身に付けたかった
4. 全く身に付かなかった

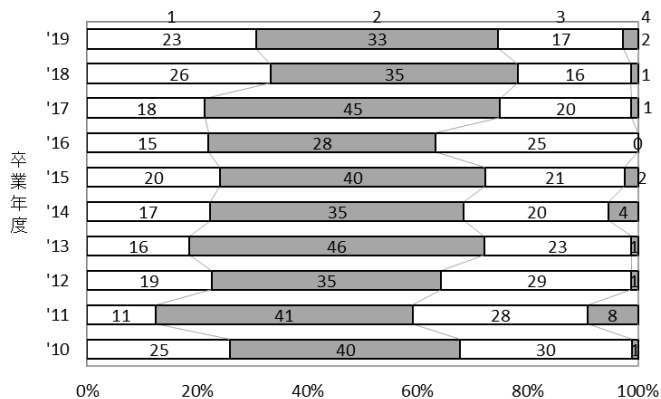
a. 教養・基礎学力：



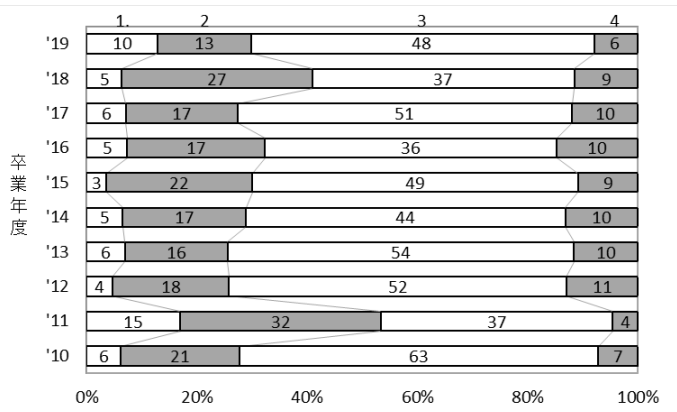
b. 専門知識：



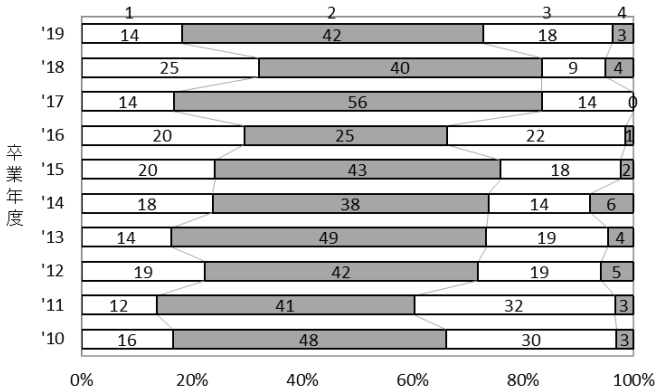
c. 技術・技能



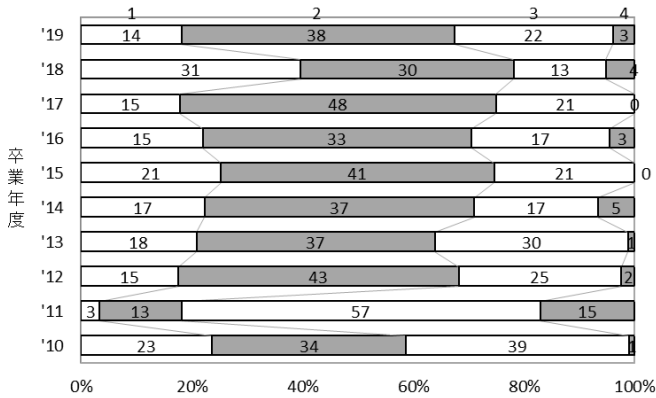
d. 英語を含めた外国語運用力



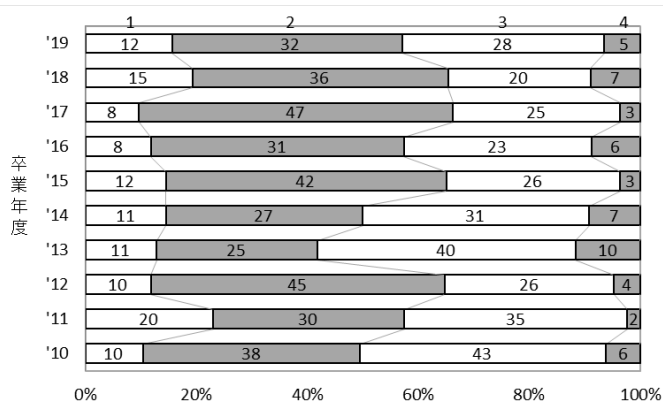
e. 一般的なコミュニケーション力 :



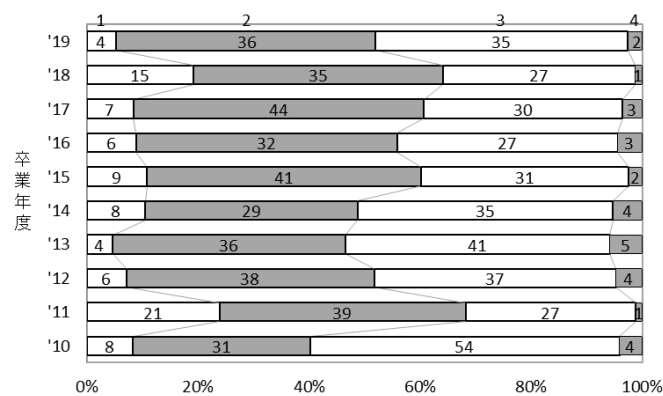
f. プレゼンテーション力 :



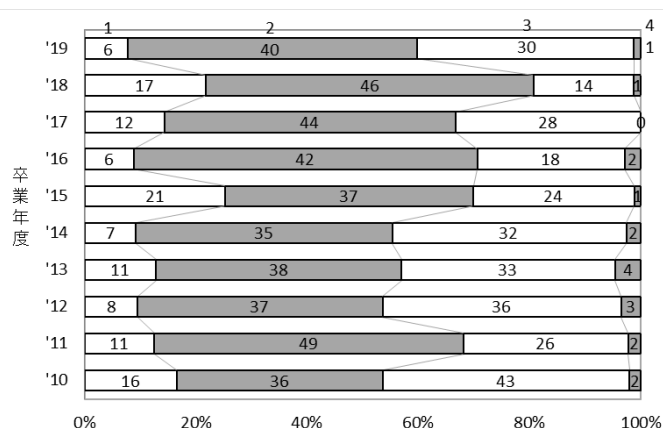
g. IT リテラシー・コンピュータ操作能力：



h. 独創性・発想力：



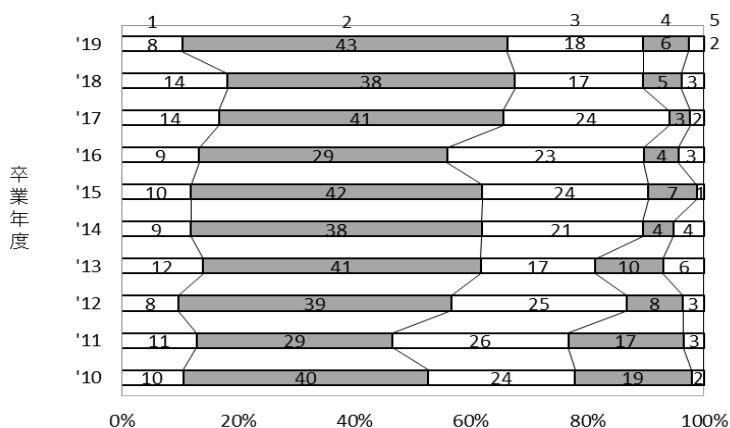
i. 課題発見・解決力：



今年度は教養・基礎学力，専門知識の「身に付いた」「ある程度身に付いた」という割合がアンケート調査開始以来，最高であった（80%以上）。一方で，外国語運用力で「もっと身に付けたかった」が60%以上であった。（B19）の結果も踏まえ，外国語（英語）教育をどうするか検討する余地がある。

(B23)博士前期課程を修了するにあたり、修士としての専門能力が身に付いたと思いますか、自己評価として満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足

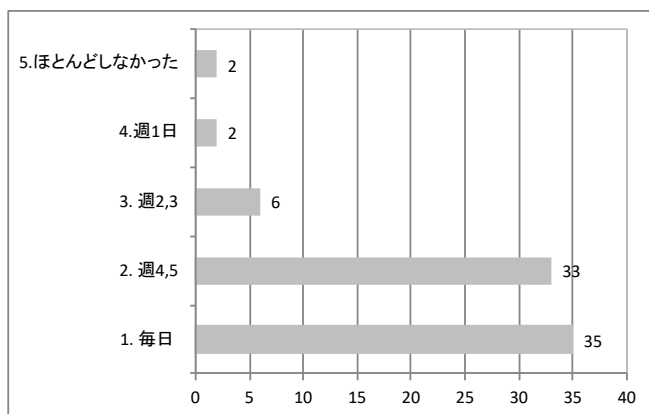


「満足」「どちらかといえば満足」の割合が66%であり、過去3年間、同様の傾向にある。

修士論文の研究および研究指導体制やシステムについてお聞きします。

(B24) 修士論文の研究に平均としてどれだけ費やしましたか。

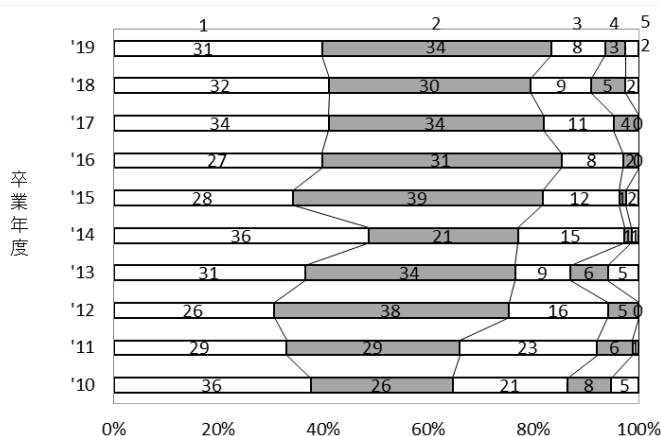
1. 毎日
2. 週4, 5日
3. 週2, 3日
4. 週1日
5. ほとんどしなかった。



「毎日」「週4, 5日」の学生が90%程度である。熱心に研究していることが伺える。

(B25) 大学院での研究指導体制に対して満足していますか。

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらとも言えない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足



「満足」「どちらかといえば満足」が80%以上である。また「どちらとも言えない」は年々減少傾向にある。

(B26) 研究を継続する上で役にたった項目（中間発表，学会発表，セミナーなど）があれば記述して下さい。

回答：34件

学会発表の回答が最も多く，次いでセミナー，中間発表であった。自身で発表し，他者とディスカッションすることが研究に役立つことを実感していると思われる。

C. 修了後の進路について

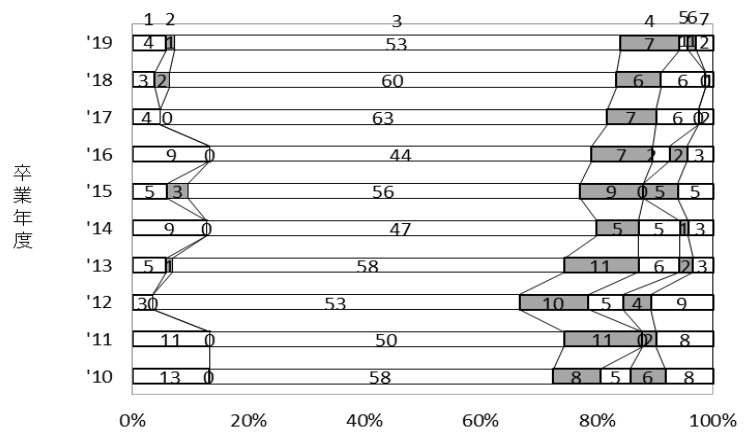
(C1) あなたの4月以降の進路は何ですか。

[大学院博士後期課程へ進学]

1. 熊本大学
2. 他の大学

[就職]

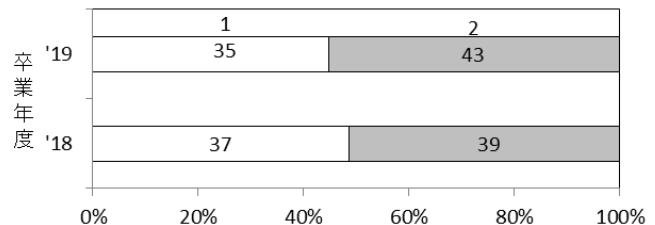
3. 民間企業
4. 教職
(非常勤および臨時採用を含む)
5. 公務員
6. その他の就職先
7. その他（進学・就職以外）：1件



例年ほぼ同様の傾向で，民間企業に就職する院生が圧倒的に多い。一方で博士後期課程への進学が低い割合で止まっている。

(C2) M1の時に開催している進路説明会には出席しましたか。

1. はい
2. いいえ



(C3) 大学院博士後期課程に進学する人にお聞きします。進学をいつ決めましたか。

回答数：9 件

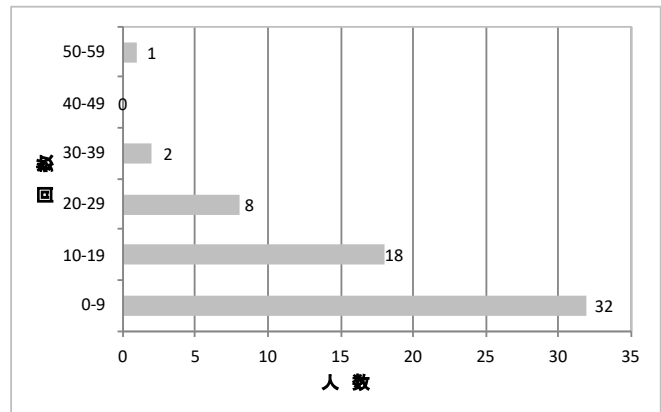
大学入学時 (1名)
 学部3年次 (1名)
 学部4年次 (2名)
 修士1年次 (2名)
 修士2年次 (3名)

就職活動をした人にお聞きします。就職活動をしなかった人は(D1)に進んで下さい。

(C4) 就職活動（面接や企業訪問など）のため、
 企業を何回訪問しましたか。

回答数：61 件

ピークは 0-9 回にあるが、10-19 回という院生
 も多い。



(C5) 就職活動をおこなった期間はいつですか。

回答数：63 件

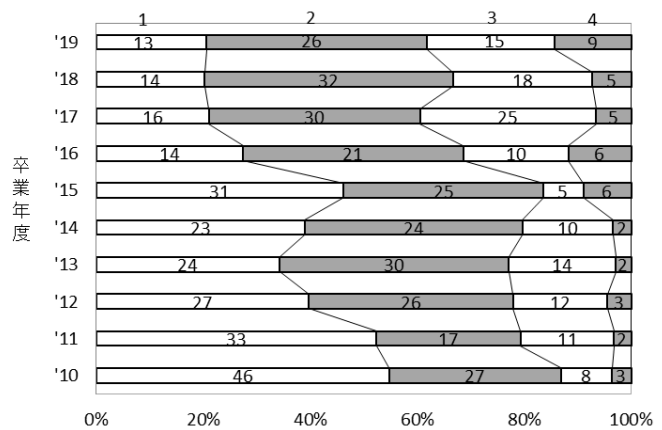
就職活動の開始時期は、M1 の 2-3 月からである
 ことがわかる。一方、終了時期はおおよそ M2 の
 4-6 月である。大多数が民間企業に就職するので、
 就職活動の解禁日に沿った結果となっている。

開始時期	人数	終了時期	人数
2018.03	1	2018.04	1
2018.06	2	2019.03	2
2018.08	3	2019.04	13
2018.10	3	2019.05	15
2018.11	2	2019.06	24
2018.12	8	2019.07	4
2019.01	7	2019.08	2
2019.02	13	2019.11	2
2019.03	20		
2019.04	2		
2019.06	2		

(C6) 就職活動のため、大学院の授業や研究に参加できないことによる影響はどの程度ありましたか。

- 1. かなりあった 2. 少しあった
- 3. あまりなかった 4. 全くなかった

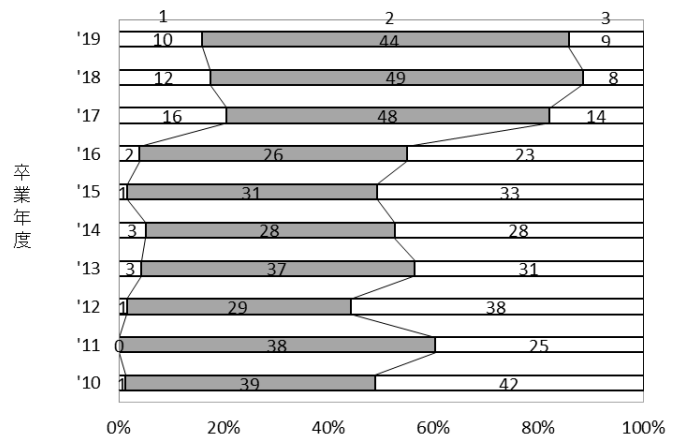
「かなりあった」は減少傾向にあるが、それでも「少しあった」は40%以上を占めている。



(C7) 企業等からの求人で学部やコースからの推薦を依頼されることがありますが、この推薦枠を利用されましたか。

- 1. 推薦を利用した
- 2. 推薦枠を利用しなかった
- 3. 知らなかった

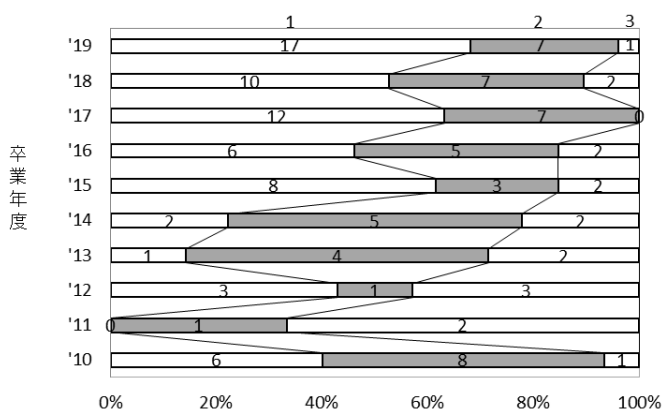
推薦を利用した割合が過去2年と比べると減少しているが、それでも15%程度いる。「知らなかった」の割合は大きく減少しているの、周知はある程度なされていると思われる。



(C8) 大学院でインターンシップを履修した人にお聞きします。インターンシップは卒業後の進路を決める上で役立ちましたか。

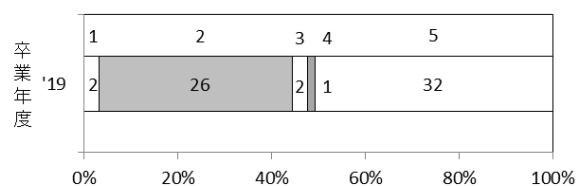
- 1. 役立った
- 2. どちらとも言えない
- 3. ほとんど役立たなかった

「役立った」との回答がアンケート調査開始以来、最高であった。院生にインターンシップの重要性が年々浸透しているであろう。



(C9) 就職相談・キャリア支援の体制および情報には満足でしたか.

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である
5. 利用していない

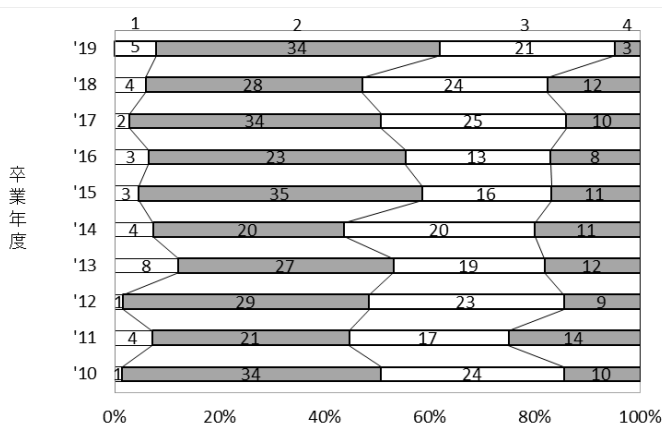


「利用していない」を除くと「大いに満足」「満足」の回答が90%程度で、現状の体制、情報への満足度は高い。

熊本大学理学部理学科を卒業した人にお聞きします (該当しない学生は(D1)に進んで下さい).

(C10) 就職活動で学部時代に数学・理科の専門基礎を幅広く学んだことが役に立ちましたか.

1. 採用の決め手となった
2. ある程度役にたった
3. どちらもとれない
4. 役に立たなかった



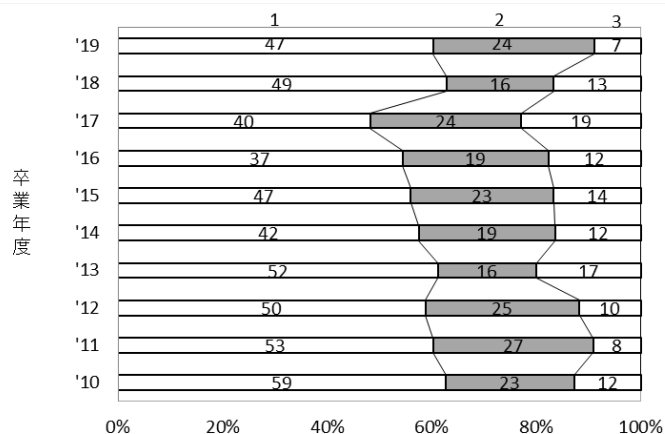
「採用の決め手となった」「ある程度役にたった」の割合がアンケート調査開始以来、最高であった(62%)。就職活動で、ある程度専門知識を必要とすることを反映していると思われる。

D. 学習環境や学生生活について

(D1) 自主的に学習できる場所や施設は十分ですか. 必要なものがあれば挙げて下さい.

1. 十分
2. どちらとも言えない
3. 不十分

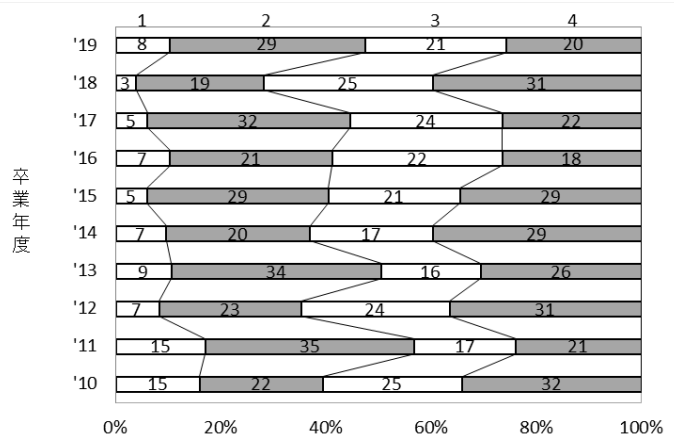
「十分」が60%以上である。「不十分」は減少傾向にある..



(D2) 在学中は、学生生活を続けていく上で、
経済的な問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

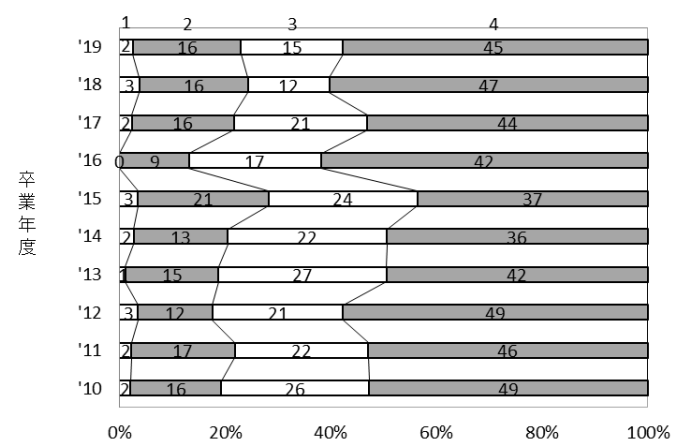
半数近くが「ほぼ全期間」「時々」あったと回答している。自然科学教育部だけでは対応が難しいが、何らかの経済的支援を考慮する必要があるだろう。



(D3) 在学中は、教員や学生との人間関係で問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

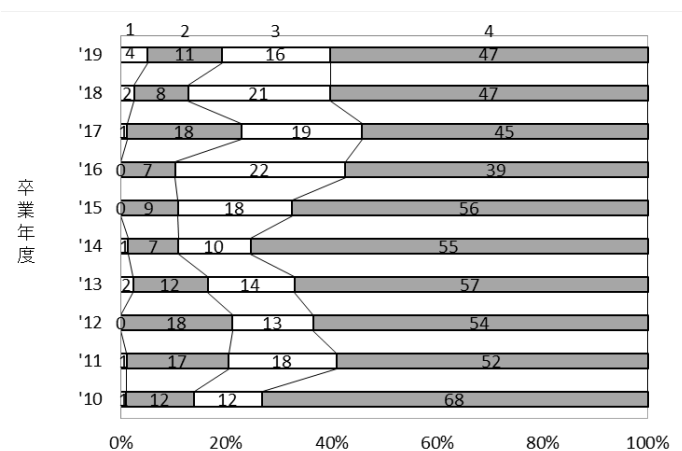
少しだけでも含めると「あった」の回答が40%以上になっている。対応する窓口の整備が必要である。



(D4) 在学中は、住居の条件や環境に問題がありましたか。

1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

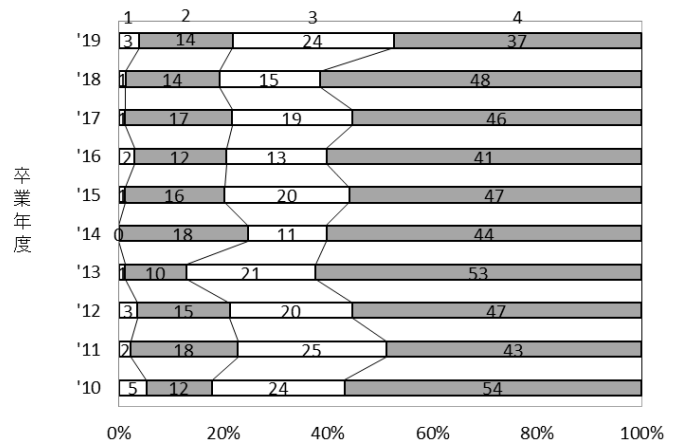
少しだけでも含めると「あった」の回答が40%程度になっている。多かれ少なかれ住環境に問題を抱えている院生が一定数いる。



(D5) 学生生活を続けていく上で健康面に問題がありましたか.

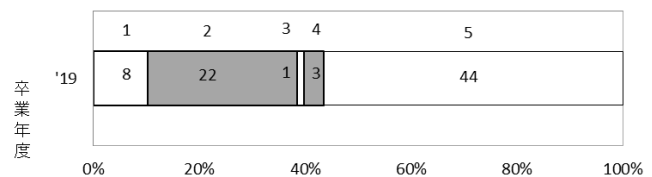
1. ほぼ全期間にわたってあった
2. 時々あった
3. 少しだけあった
4. 全くなかった

少しだけでも含めると「あった」の回答が50%以上になっている. しかし次の(D6)において健康相談の体制に多くが満足している結果になっている.



(D6) 健康相談の体制には満足できましたか.

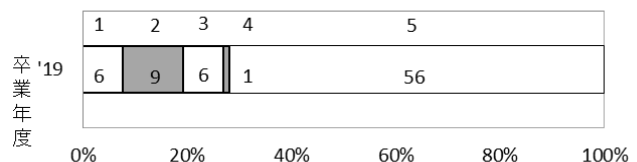
1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である
5. 利用していない



「利用していない」を除くと「大いに満足」「満足」の回答が90%程度で、現状の体制への満足度は高い.

(D7) 各種ハラスメント相談の体制には満足できましたか.

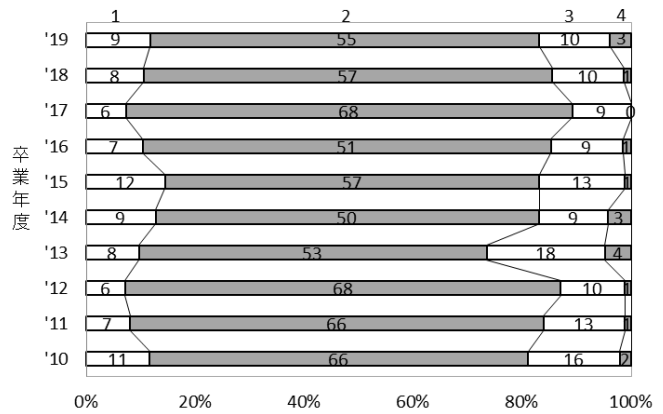
1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である
5. 利用していない



「利用していない」を除くと「大いに満足」「満足」の回答が70%程度であり、現状の体制への満足度は高いと思われるが、「不満足」も一定数おり、その理由を精査する必要があるかもしれない..

(D8) 授業・学習支援・生活支援を含む熊本大学の学習環境全体の満足度についてお聞きします。

1. 大いに満足である
2. 満足である
3. 不満足である
4. 大いに不満足である



80%以上が「大いに満足」「満足」と答えている。学習環境全体の満足度は高い。

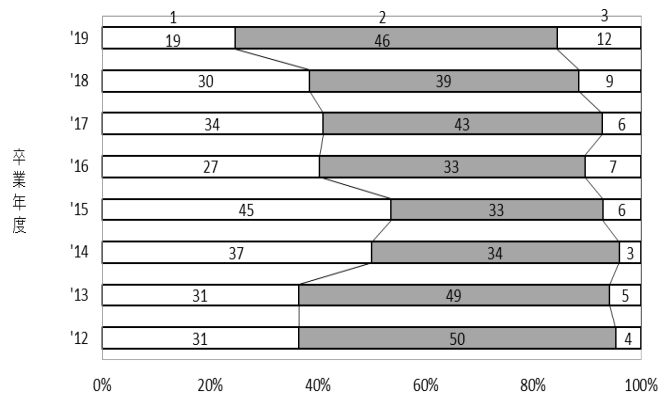
E. 授業改善アンケートおよびシラバスについて

大学院の授業に関するシラバスについてお聞きします。

(E1) シラバスは良くよみましたか。

1. 良く読んだ
2. 真剣には読まなかった
3. 見ていない

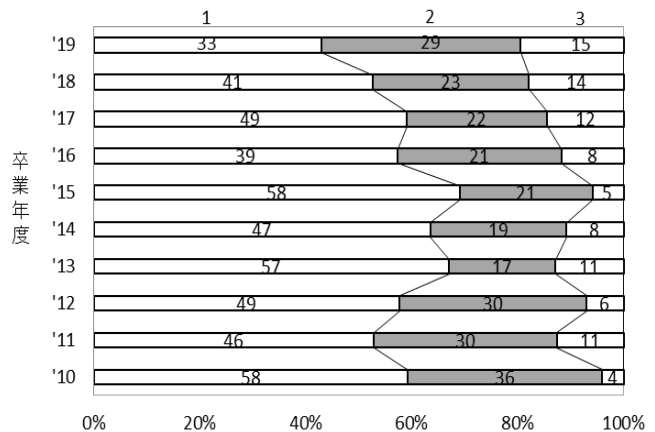
「真剣には読まなかった」が最も多かった(60%程度)。



(E2) 履修する科目を選択する際にシラバスは役立ちましたか。

1. 役立った
2. どちらとも言えない
3. ほとんど役立たなかった

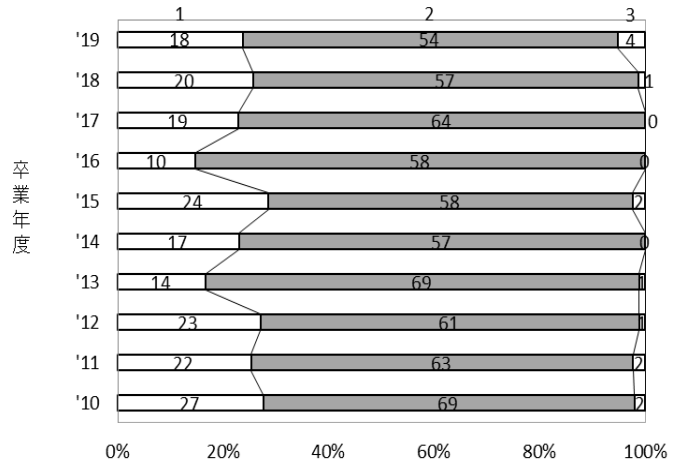
「役立った」が40%程度で、年々減少傾向にある。他方、「ほとんど役立たなかった」が20%程度で増加傾向にある。(E1)の結果も踏まえ、履修ガイダンスなどでシラバスを読む指導をする必要がある。



(E3) シラバスの成績評価の方法はもっと明確なものが良いですか。

1. より明確な方がよい
2. 今の程度でよい
3. その他

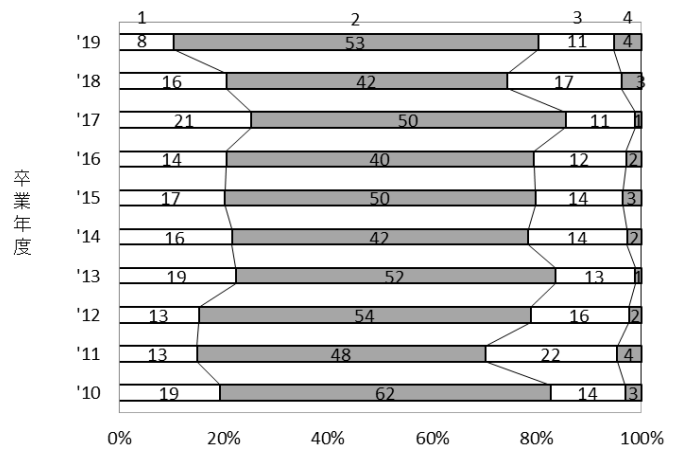
「今の程度でよい」が多数を占めている(70%程度)。



(E4) 全体的に、シラバスに記載された方法で厳格な成績評価が行われていると思いますか。

1. 行われている
2. 多くの科目で行われている
3. あまり行われていない
4. その他

「行われている」と「多くの科目で行われている」を合わせて約80%である。一方、「あまり行われていない」も15%程度いるので、この割合を減少する努力が必要である。

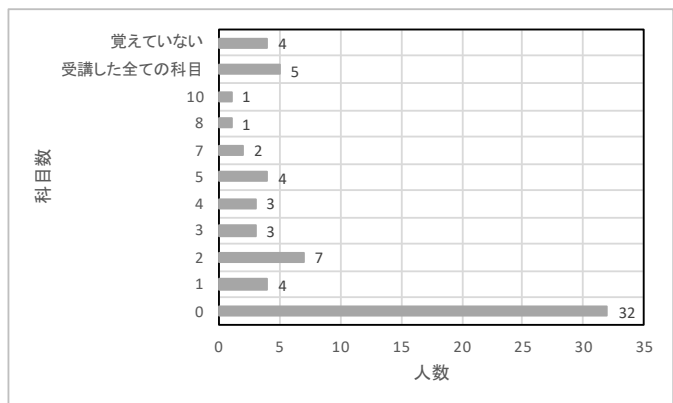


大学院の授業に対して行われた「授業改善のためのアンケート」についてお聞きします。

(E5) 在学中何科目の授業でアンケートに回答しましたか。

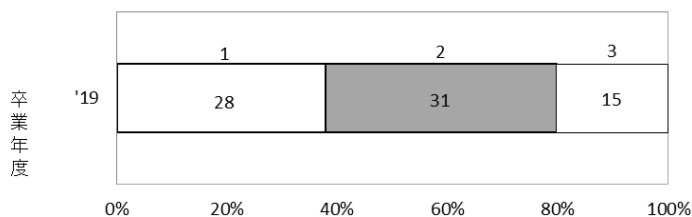
回答数：66件

0科目の回答が非常に多い。大学院授業科目は受講生が少ないのが多く、アンケート対象にならないためと思われる。授業評価の上で、少人数履修者の大学院科目におけるアンケートもしくはそれに代わるものを検討する必要があるかもしれない。



(E6) アンケートの回答に積極的に協力しましたか.

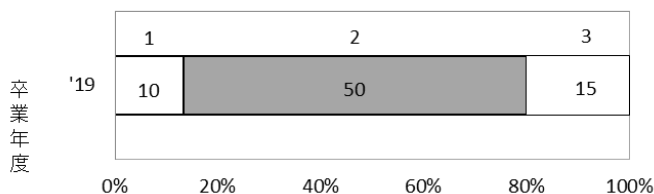
1. はい
2. いいえ
3. アンケートを行った授業がない



アンケートを行った授業科目では「はい」と「いいえ」がほぼ半々である。できるだけ積極的に回答するように促す努力が必要である。

(E7) Web 上での教員のコメントは読みましたか.

1. はい
2. いいえ
3. アンケートを行った授業がない



教員のコメントはほとんど読まれていないことがわかる。コメント入力には授業終了後かなり経過している上に、成績も確定しているので、学生のアンケート結果に対する興味がほぼ失せていると思われる。ただし「はい」も一定数いるので、コメント入力が全く徒労であるということは決してない。

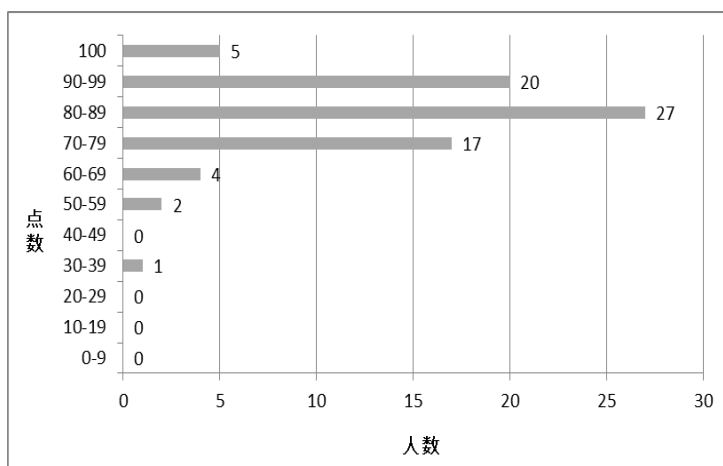
F. 総合評価

自身の専攻に対する評価をお聞きします.

(F1) あなたの理学専攻に対する評価・満足度を 100 点満点で点数をつけて下さい.

回答数 : 76 件

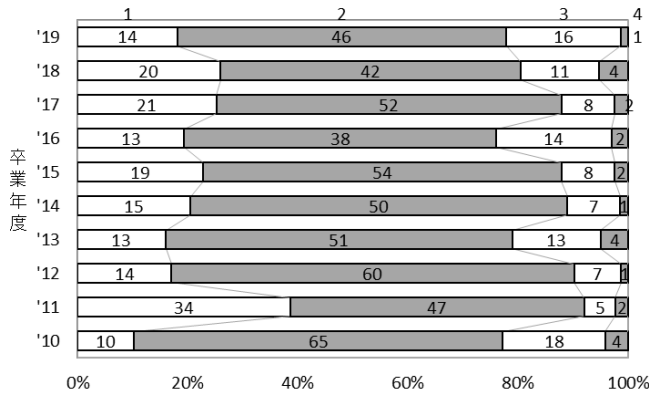
80-89 点をピークとして、70-100 点は 90%程度である。概ね満足している院生が多いことがわかる。



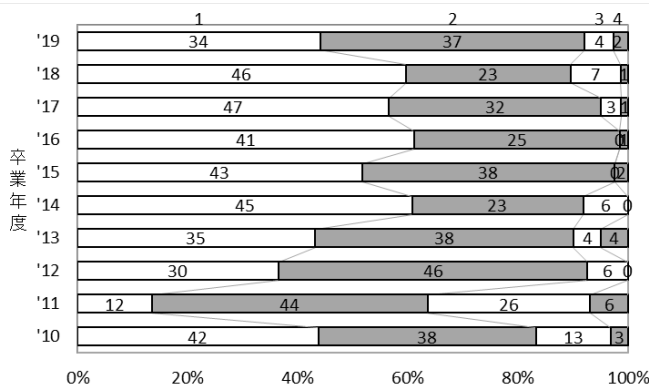
(F2) 自身の専攻の評価項目に関して次の4段階で回答して下さい。

- 1. 大いに満足である 2. 満足である
- 3. 不満足である 4. 大いに不満足である

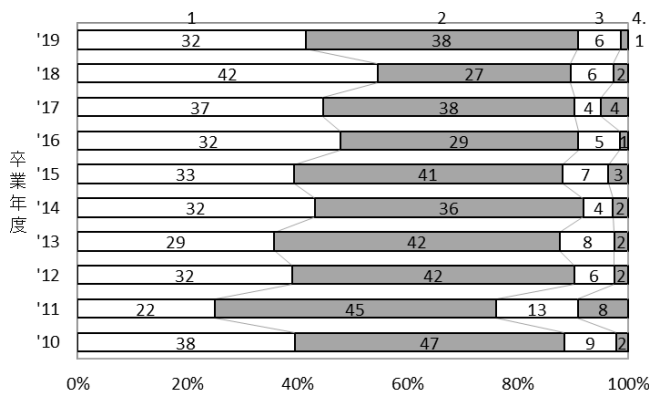
a. 授業科目の開設状況：



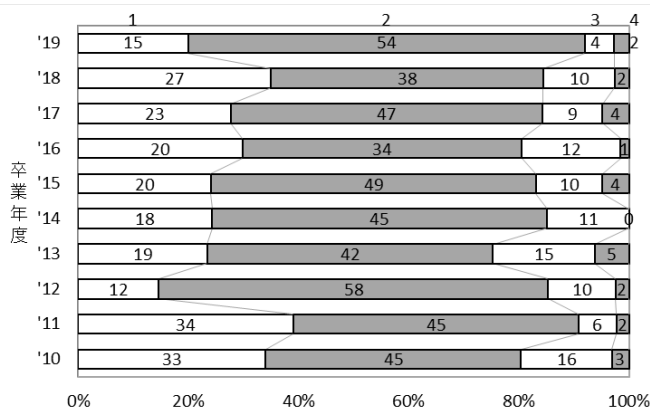
b. 修論等の指導：



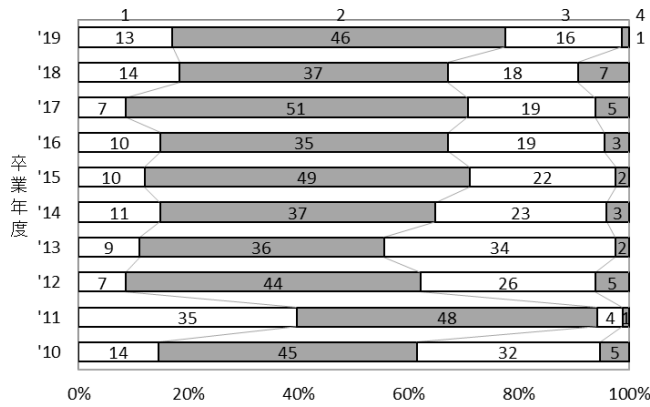
c. 研究室等での人間関係：



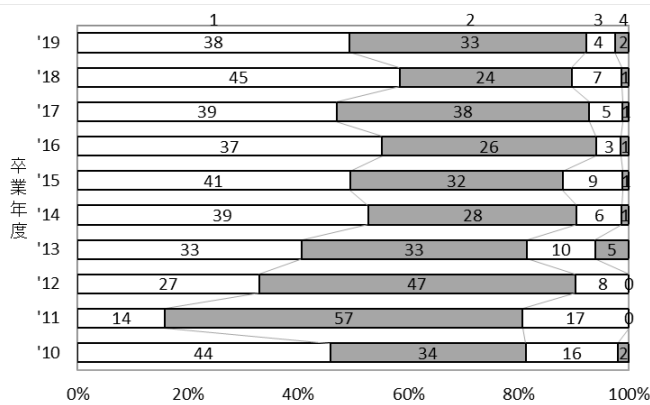
d. 施設や図書等の勉学環境：



e:国際交流



f. 教職員等の熱意・対応態度等：



全ての項目において「大いに満足」「満足」が80-90%程度であり、理学専攻に対する満足度が全般的に高いと思われる結果であった。今後も不満足という回答を少なくし、より高い満足度になるよう、個々の教員の努力が求められる。